

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500246
法人名	有限会社 ほほえみ
事業所名	グループホーム微笑の家なかむら
所在地	愛媛県新居浜市中村2-4-25
自己評価作成日	平成25年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 6月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症介護の自立支援の中で、日常生活の中の「衣・食・住」において特に重点を置いているものは「食・住」と考えている。朝の清掃・掃除から始まり清潔な環境整備と食の準備・片付け等すべて利用者とともにを念頭におき日々の生活支援を実施しています。施設でなくいつまでも家庭で生活しているという感覚を常に持ち、利用者・職員・家族が一体となって家庭的で明るく楽しいホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物内はゆったりとした広さがあり、明るく清潔感のある事業所で開設2年目を迎える。管理者と職員は、利用者一人ひとりにあった日常の楽しみや普通の生活が送れるよう、個別ケアの視点を心がけて支援している。利用者の健康管理には気を配っており、毎日の健康チェックや排泄チェックをしている。また、事業所は医療との連携も重要視しており、利用者が安心、安全な生活が送れるよう支援している。職員は利用者に美味しい手作りの食事を食べてもらい、楽しんでもらえるよう工夫をして調理をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 微笑の家なかむら

(ユニット名) のぞみ

記入者(管理者)

氏名 村上 由晃

評価完了日 25年 6月 6日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型サービスの意義や理念を深く理解するために介護や支援の在り方を勉強会などから確認し合っている。	
			(外部評価) 法人の理念である「その人らしさを大切にする温もりのある支援と介護を目指しています」を職員と共有して実践できるように努めている。管理者と職員は、利用者一人ひとりの状況や希望に合わせた支援を心がけており、職員は家族のような関わりを大切にしながら対応している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事には職員も町の一員として参加し利用者が地域生活を円滑に送れるよう努めている。	
			(外部評価) 自治会に加入して、地域情報を得て行事などに参加している。利用者は近隣の保育園や小学校の運動会の見学に出かけたり、近所を散歩時には地域住民と挨拶や会話をしながら交流をしている。また、事業所にはフラダンスや三味線などのボランティアの訪問があり交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 近隣の商店まで散歩と称し出かけ買い物をしているその際買い物などの活動の有効性を随時説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議での内容は会議内で報告され要望や期待されていることの実現に向け介護や支援に活かされている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、市議会議員、市担当者等の参加を得て開催している。会議では参加者から認知症について知りたいとの意見が出され、認知症の勉強会を一緒に開催する工夫をしている。また、事業所の事例検討では、参加者からの知恵や意見を参考にして、サービス向上に繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 新居浜市を主たる相談相手にとらえ介護支援における疑問は質問等して回答を業務に活用している。	
			(外部評価) 運営推進会議には市担当者が参加しており、事業所の様子の把握や意見交換をしている。また、市からは研修会や講演会の情報提供があり参加している。最近では、入居に関して地域包括支援センターとの連携が密になっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 目に見える身体拘束及び精神的にストレスを与えるような見えない拘束もないよう年間を通じて複数回の学習会を実施している。	
			(外部評価) 管理者が身体拘束のマニュアルを作成しており、勉強会の開催など職員は理解して支援している。職員は利用者との関わりを大事にしており、向き合って支援することを心がけている。また、玄関の施錠はしておらず、利用者は自由に出入りすることができるようになっており、ユニット間の利用者同士の交流がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体に限らず特に言葉での虐待がないように注意しながら介護するように努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度について説明をうけたり資料を読んで知識を得ている実際に制度を使われている方もいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者や家族から不安や疑問な点を尋ねられた場合管理者に報告し管理者から説明して不安の除去に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者家族の言葉を受け止め運営等改善点を検討し今後の運営に活かせるように努力している。	
			(外部評価) 家族の訪問時には、利用者の生活面や健康面の様子を伝えている。管理者や職員は、家族との関係づくりを重視しており、家族が訪れやすい雰囲気や環境を作るように心がけ、家族の話聞くように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に関する意見があれば管理者に伝える。	
			(外部評価) 管理者と職員は日頃から何でも話しやすいような関係づくりをしており、話をじっくり聞き相談に応じている。また、管理者は代表者とも話しやすい関係ができしており、職員から意見が出された場合は反映できるよう努めている。事業所では外部研修や講習会の案内を回覧し、希望者は参加できるように対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 不明な点は、経営者に確認をとっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部の研修会参加は積極的に行い介護に関する知識など自己のスキルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホームの相互研修への参加によりサービスの質を向上させていけるような取り組みが必要。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者が聞き取りを行い不十分な場合は職員と管理者が入居者や家族と話し合える時間を設けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族から気軽に相談が出来るような環境作りに努めているがまだ充分とは言えない。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 管理者の事前の聞き取りと現場での実践とが揃っているか十分に検討してケアを提供している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者が進んで行動できるように配慮している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の関係を尊重しているがまだ十分ではなく今後も努力をしていく必要がある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人親戚等がいつでも自由に来訪できる環境作りをしている。 (外部評価) 利用者が馴染みの人や場所を訪ねていくことは少ないが、友人の訪問が多くあり、利用者と一緒に散歩や会話を楽しめるよう支援している。利用者は訪問理容のサービスほか、訪問美容サービスも利用できるようになった。職員は利用者の生活歴や希望に応じた支援ができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや散歩の声掛けは利用者同志がおこなっている。職員から話題を提供する場合もある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 管理者が中心に対応しているが時には職員が関わることもある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その人が今何を求めているか職員間の話し合い等を通じて把握に努めている。	
			(外部評価) 職員は、利用者に寄り添い時間をかけて話を聞くように努めており、一人ひとりの思いや望みを考えることを大切にして実践している。把握が困難な利用者には、家族からの情報や意向を参考にしながら、表情など思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 聞き取り調査の時点で情報を収集し入居後の生活を見ながら合わせて把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース会議等は必要に応じて開催し申し送りは徹底的におこなって把握するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的なケア会議において職員の意見を集約して介護計画を作成している。介護計画の見直しも適宜行い現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価) 職員は利用者の担当制を取り支援しており、介護計画の立案やモニタリングでは、それぞれの担当職員が記録や日々の生活をもとに話し合い作成している。介護職員と看護職員がそれぞれの視点で話し合うことができおり、利用者や家族の意向が反映された介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々の記録を確実に記入しており常に確認できる状態にすることで職員間の情報の共有が図られている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) サービスの多機能化は意識しているがまだ十分には取り組めていない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 外出や買い物、レクリエーション等を通じて支援するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の意向も反映させながら、定期受診や緊急 時の受診などの医療も受けられるような体制が整つて いる。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を継続して受診するこ とができる。事業所には月2回協力医の往診があり、 利用者の健康管理に努めている。また、各ユニットに は看護職員が配置され、安心して利用できる体制がで きている。皮膚科や眼科などの専門医を家族の協力を 得て受診しているが、職員が同行する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 各ユニット1名ずつ配置されており、職場からの情報 を伝えて相談し、随時適切な医療が受けられるよう になっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 管理者と看護職を中心に対応しており医療機関とも常 に連携できるように努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合はかかりつけ医同席で本人家族に説明 する場合やあらかじめホーム側と十分に協議する場合 もある。	
			(外部評価) 入居時に重度化や終末期には、事業所としてできるこ ととできないことを利用者や家族に明確に説明してい る。利用者の重度化が進んだ場合は、主治医や協力 医、職員、利用者、家族が話し合うようにしている。 協力医や看護職員とは、連絡が密に取れる体制がで きており、利用者や家族は安心して利用することができ る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ホーム内で勉強会に参加し普段から少しずつでも知識が身に付く様に心掛けている。マニュアルは理解できている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアル化されているので自己でシュミレーションし対応出来る様心掛けている。地域との協力体制もできつつある。	
			(外部評価) 年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や訓練後に課題の検討などを行っている。防火設備点検や漏電防止点検などは専門業者が確実に実施している。緊急時には、地域住民の協力が得られるよう運営推進会議で議題に挙げたり、回覧板で地域に告知したりするなど、近隣との協力体制づくりに努めている。	緊急時に職員だけで利用者の避難などの対応をするには限界があるため、地域住民の助けや協力の重要性を深く認識し、地域住民への協力要請の理解や避難訓練への参加、協力が得られるよう、地道に声かけしていくなどの取組みが望まれる。また、食料や水などの備蓄の用意をしていくことを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自室での生活に重きを置き自主性を尊重しクオリティーの高い生活を日々送ってもらう様努力している。個々のプライバシーにも気を配っている。	
			(外部評価) 職員は利用者のプライバシーを損ねないよう居室でくつろぐ時間や趣味のカラオケなど、利用者一人ひとりに合った自由な生活が送れるよう支援している。利用者自身ができることやしたいことは、誇りを損ねないよう人格を尊重して職員が安全に見守りながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) その人その人の思いを計り受け止め気軽に相談希望が言えるようなムード作りに努め自己決定に随時相談にのっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員からの押し付けにならないよう個々のしたいこと、希望を優先するよう可能な限り努める。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) まず清潔本人の意向を大切にしその人にあつた支援ができています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節感、旬を大切にし利用者と食事の準備や後かたづけなど共にする事で連帯感が生まれ楽しい時間になっている。	
			(外部評価) 職員は利用者と同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら食事をしている。食事は職員全員が交代で手作りのものを提供しており、献立はバラエティーに富んでいる。また、利用者は準備や片づけなどできることを手伝っている。利用者の誕生日会には握り寿司など特別食を提供しており喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの水分量や食事摂取量体重などを記録し水分過多脱水肥満などに注意し健康管理に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) それぞれ出来るところは本人がし、本人の出来ないもしくは出来にくい部分は手助けしている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄チェック表を作成する事により各自の排泄パターンを把握している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を記入して、利用者の排泄のパターンを把握している。特に排便チェックを看護職員と連携して行うことで、健康管理に役立てている。利用者の状態に合わせて、福祉用具を使用するなどトイレ誘導やポータブルトイレでの排泄支援をしている。トイレは、蓋が自動開閉する便器が取り付けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の排泄チェック表により通じの有無を毎日確認している。全体的には細めな水分補給や食事による便秘予防を心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 柔軟な入浴形態をとっており入りたくない日は休めるなどのゆとりをもたせた対応にしている。	
			(外部評価) 週3回を基本として、利用者は午後から入浴することができる。利用者が汗をかいた場合や排便時の洗浄の対応など臨機応変に清潔を保持できるよう入浴支援をしている。脱衣室にはカーテンが設置されており、プライバシーを確保するよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 居室リハビリ等ホーム内を自由に動き、個人個人がそれぞれ好きなように横になったり眠ったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬局等で同封されるお薬表は1冊のファイルにとじられ職員がいつでも閲覧でき把握できるようにしており確実な服薬をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人個人の役割支援はある程度できているが嗜好調査が不十分な人もある。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族やヘルパー同行により外出できている。特に日曜日は嗜好品の買い物に行けるよう利用者には伝えている。	
			(外部評価) 日常的に利用者は近隣を散歩している。利用者希望により家族の協力を得て、買い物など一緒に外出をしたり自宅に外泊できるよう支援している。利用者の状態に合わせて個別支援に力を入れており、カラオケが趣味の利用者数名とカラオケ店に出かけて楽しむなど気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理できる範囲と必要な範囲内の金額程度は利用者本人で管理している人もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の中には携帯電話を持ち込んでいる人もいるが職員が代弁し会話を進めている場合もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共同空間は広々と自由に使用できるようになっておりユニット1階平屋建てのため使いやすくなっている。	
			(外部評価) キッチンから広くゆったりとした居間を見渡すことができ、中庭から光が差し込み明るい空間となっている。一段高い和室はきれいに整頓されており、利用者は自由にくつろぐことができる。廊下も幅が広く、手すりが設置され、利用者が安全に行き来できるよう配慮されている。掃除は利用者と一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室やソファもあり利用者同士で談笑ができています。リビングでの席は固定されているので1人の居場所は作りやすい。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅等で使い慣れた物を居室に持ち込むなどして人によってはお仏壇も置くなどその人にあったお部屋作りをして暮らしている。	
			(外部評価) 居室はクローゼットを完備しており、十分な広さが保たれている。利用者は、自宅から使い慣れたものや好みのもを持ち込むことができ、人形や衣装ケース、テレビを置くなど、くつろげる落ち着いた空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全に配慮することで出張りがなく相対的に安全への配慮は十分できている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500246
法人名	有限会社 ほほえみ
事業所名	グループホーム微笑の家なかむら
所在地	愛媛県新居浜市中村2-4-25
自己評価作成日	平成25年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 6月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症介護の自立支援の中で、日常生活の中の「衣・食・住」において特に重点を置いているものは「食・住」と考えている。朝の清掃・掃除から始まり清潔な環境整備と食の準備・片付け等すべて利用者とともにを念頭におき日々の生活支援を実施しています。施設でなくいつまでも家庭で生活しているという感覚を常に持ち、利用者・職員・家族が一体となって家庭的で明るく楽しいホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物内はゆったりとした広さがあり、明るく清潔感のある事業所で開設2年目を迎える。管理者と職員は、利用者一人ひとりにあった日常の楽しみや普通の生活が送れるよう、個別ケアの視点を心がけて支援している。利用者の健康管理には気を配っており、毎日の健康チェックや排泄チェックをしている。また、事業所は医療との連携も重要視しており、利用者が安心、安全な生活が送れるよう支援している。職員は利用者に美味しい手作りの食事を食べてもらい、楽しんでもらえるよう工夫をして調理をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 微笑の家なかむら

(ユニット名) ちとせ

記入者(管理者)
氏名 村上 由晃

評価完了日 25年 6月 6日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念に沿った介護と支援を目指し管理者と職員は利用者1人1人に合った支援を心掛けて実践している。	
			(外部評価) 法人の理念である「その人らしさを大切にする温もりのある支援と介護を目指しています」を職員と共有して実践できるように努めている。管理者と職員は、利用者一人ひとりの状況や希望に合わせた支援を心がけており、職員は家族のような関わりを大切にしながら対応している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ホーム周辺の散歩で挨拶や会話、またボランティアの訪問などにて交流を図っている。	
			(外部評価) 自治会に加入して、地域情報を得て行事などに参加している。利用者は近隣の保育園や小学校の運動会の見学に出かけたり、近所を散歩時には地域住民と挨拶や会話をして交流をしている。また、事業所にはフラダンスや三味線などのボランティアの訪問があり交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人々にこれから生かしていきたいと思っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催されているが内容は十分に開示されていないので全職員に浸透されていない、今後は情報を開示しサービスの向上につなげたい。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、市議会議員、市担当者等の参加を得て開催している。会議では参加者から認知症について知りたいとの意見が出され、認知症の勉強会を一緒に開催する工夫をしている。また、事業所の事例検討では、参加者からの知恵や意見を参考にして、サービス向上に繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 情報交換や窓口担当者との連絡相談を行うなどして協力関係を築くよう努力しています。	
			(外部評価) 運営推進会議には市担当者が参加しており、事業所の様子の把握や意見交換をしている。また、市からは研修会や講演会の情報提供があり参加している。最近では、入居に関して地域包括支援センターとの連携が密になっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について職員間で話し合い確認をし身体拘束のないケアに取り組んでいます。	
			(外部評価) 管理者が身体拘束のマニュアルを作成しており、勉強会の開催など職員は理解して支援している。職員は利用者との関わりを大事にしており、向き合って支援することを心がけている。また、玄関の施錠はしておらず、利用者は自由に出入りすることができるようになっており、ユニット間の利用者同士の交流がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体に限らず言語にまで虐待がないよう常に気をつけて介護に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要な場所は積極的に活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者より利用者及び家族には十分な説明を行い不安の除去に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家人の訪問時にそれぞれの家族から要望や意見等を聞いて運営に活かしている。	
			(外部評価) 家族の訪問時には、利用者の生活面や健康面の様子を伝えている。管理者や職員は、家族との関係づくりを重視しており、家族が訪れやすい雰囲気や環境を作るように心がけ、家族の話聞くように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見や提案は常に検討されている。	
			(外部評価) 管理者と職員は日頃から何でも話しやすいような関係づくりをしており、話をじっくり聞き相談に応じている。また、管理者は代表者とも話しやすい関係ができしており、職員から意見が出された場合は反映できるよう努めている。事業所では外部研修や講習会の案内を回覧し、希望者は参加できるように対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 常に職員との交流をはかり意見交換や説明をして職場環境、条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の機会が少ないので増やしたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他施設との交流の機会をつくりサービスの向上を図りたい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 傾聴する機会をより多く持ち職員間においても情報を共有し、安心と信頼を築いていけるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族来所時には丁寧な対応を心掛け気軽に相談出来る雰囲気作りを心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 管理者や職員の聞き取り結果の情報共有により適切なケア提供に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者に寄り添う姿勢でケアに臨み利用者の立場で考えることに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との連絡を密にとり家族の力を借りながら支援することに努める。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 常に施設をオープンにして時には此方から出掛けることにより馴染みの関係や場所との関係を継続でき出来るよう努めている。	
			(外部評価) 利用者が馴染みの人や場所を訪ねていくことは少ないが、友人の訪問が多くあり、利用者と一緒に散歩や会話を楽しめるよう支援している。利用者は訪問理容のサービスほか、訪問美容サービスも利用できるようになった。職員は利用者の生活歴や希望に応じた支援ができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の会話から関係性を把握しリビングでの居場所にも考慮し、レクリエーションや話題の提供、声かけを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居されても管理者が時には家族等に連絡をとり関係の継続に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎月のユニット会等で話し合い利用者の意向に沿ったサービスが提供出来るよう努めている。	
			(外部評価) 職員は、利用者寄り添い時間をかけて話を聞くように努めており、一人ひとりの思いや望みを考えることを大切にして実践している。把握が困難な利用者には、家族からの情報や意向を参考にしながら、表情など思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の聞き取り調査で情報提供がなされており入居後も職員が会話の中から聞き取り情報の補充を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々のその日の状態に合った介護をするよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ユニット会やケア会議で担当者や職員が意見を出し合い介護計画を作成し必要に応じてケース会議も行っている。	
			(外部評価) 職員は利用者の担当制を取り支援しており、介護計画の立案やモニタリングでは、それぞれの担当職員が記録や日々の生活をもとに話し合い作成している。介護職員と看護職員がそれぞれの視点で話し合うことができ、利用者や家族の意向が反映された介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケア記録は的確に記載されており職員全員が必ず見ることによって情報を共有している。また気づきノートを活用し申し送りを確実にし介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時その時のニーズに対応できるよう出来る限り柔軟に接している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 外出や外食を利用者が楽しみながら行い、又戸外でのレクリエーションを通じて出来るだけ地域資源を活用できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 毎月定期的にかかりつけ医への診察をしている。緊急時 にも往診してもらい家族様の要望も受け専門医受診も 支援している。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を継続して受診するこ とができる。事業所には月2回協力医の往診があり、 利用者の健康管理に努めている。また、各ユニットに は看護職員が配置され、安心して利用できる体制がで きている。皮膚科や眼科などの専門医を家族の協力を 得て受診しているが、職員が同行する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常にナースに報告しその都度受診や医療が受けられる ようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 管理者とナースが常に対応している、病院とも連携を 考え関係の構築を図っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した時の対応の仕方を適宜家族様としている。 主治医を交えての交換情報も行っている。	
			(外部評価) 入居時に重度化や終末期には、事業所としてできるこ ととできないことを利用者や家族に明確に説明してい る。利用者の重度化が進んだ場合は、主治医や協力 医、職員、利用者、家族が話し合うようにしている。 協力医や看護職員とは、連絡が密に取れる体制ができて おり、利用者や家族は安心して利用することができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルに沿った連携はできている。急変時の対応や実践力も向上出来ている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアル化して定期的に避難訓練を行っている。	
			(外部評価) 年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や訓練後に課題の検討などを行っている。防火設備点検や漏電防止点検などは専門業者が確実に実施している。緊急時には、地域住民の協力が得られるよう運営推進会議で議題に挙げたり、回覧板で地域に告知したりするなど、近隣との協力体制づくりに努めている。	緊急時に職員だけで利用者の避難などの対応をするには限界があるため、地域住民の助けや協力の重要性を深く認識し、地域住民への協力要請の理解や避難訓練への参加、協力が得られるよう、地道に声かけしていくなどの取組みが望まれる。また、食料や水などの備蓄の用意をしていくことを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自室での生活を尊重し最低限の訪室と声掛けを行い言葉のかけ方にも注意を払っている。	
			(外部評価) 職員は利用者のプライバシーを損ねないよう居室でくつろぐ時間や趣味のカラオケなど、利用者一人ひとりに合った自由な生活が送れるよう支援している。利用者自身ができることやしたいことは、誇りを損ねないよう人格を尊重して職員が安全に見守りながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様本人が希望を気軽に言える雰囲気を作り自主性を尊重している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の本人の体調に合わせて外出等も含め出来る限り希望に沿った対応を心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で決めてもらっている、又人によつてはサポートしたりする場合もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の持っている能力を引き出せるように一諸に食事作りや準備をしたり後片付けにも協力をお願いしている、又一人一人の好みも考慮に入れメニューも偏らないように楽しく食事ができるように工夫している。	
			(外部評価) 職員は利用者と同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら食事をしている。食事は職員全員が交代で手作りのものを提供しており、献立はバラエティーに富んでいる。また、利用者は準備や片づけなどできることを手伝っている。利用者の誕生日会には握り寿司など特別食を提供しており喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量や水分量を記録し食事や水分の少ない人には声かけを行い工夫をしながら体調管理や健康維持に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアの声かけを行い磨き残しのある人には一部介助している。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にてパターンを把握し個々に応じた声かけ見守り介助を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を記入して、利用者の排泄のパターンを把握している。特に排便チェックを看護職員と連携して行うことで、健康管理に役立てている。利用者の状態に合わせて、福祉用具を使用するなどトイレ誘導やポータブルトイレでの排泄支援をしている。トイレは、蓋が自動開閉する便器が取り付けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄パターンを把握し食物繊維の多い食事を提供したり、水分摂取、運動への声かけ等で便秘予防を図っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 外出や受診等により入浴日に出来ない時は変更しいつでも入浴できる準備はしている。	
			(外部評価) 週3回を基本として、利用者は午後から入浴することができる。利用者が汗をかいた場合や排便時の洗浄の対応など臨機応変に清潔を保持できるよう入浴支援をしている。脱衣室にはカーテンが設置されており、プライバシーを確保するよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間は決めていないが本人の習慣にある程度任せている。証明を落としたり定期巡回時の足音等も安眠の妨げとならないよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬確認一覧表と薬の説明書を常備して確認しながら服薬支援ができています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホームにおける役割感を大事にし生き活きと過ごせるよう、また気分転換もできるような心掛けています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個人の外出には家族の応援も受けながら対応しています。ユニットとしての全員での外出等も計画し生活に潤いを持たず工夫もしています。	
			(外部評価) 日常的に利用者は近隣を散歩している。利用者希望により家族の協力を得て、買い物など一緒に外出をしたり自宅に外泊できるよう支援している。利用者の状態に合わせて個別支援に力を入れており、カラオケが趣味の利用者数名とカラオケ店に出かけて楽しむなど気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が自分で所持し管理している方と、お小遣いとして事務所で預かっている方もいるが自由に使えるようになっています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の携帯電話を所持している方もいます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 平屋建てで両ユニットを使用でき広くて明るく自由な共用の空間が提供できている。そして玄関やリビングには季節の花など飾って生活感を採り入れています。	
			(外部評価) キッチンから広くゆったりとした居間を見渡すことができ、中庭から光が差し込み明るい空間となっている。一段高い和室はきれいに整頓されており、利用者は自由にくつろぐことができる。廊下も幅が広く、手すりが設置され、利用者が安全に行き来できるよう配慮されている。掃除は利用者と一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングは広々としてソファや和室もあり独りでゆっくりしたり気の合った同士で談笑できるようになっています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自分の使い慣れたタンス等を持ち込んでもらったりテレビを置いて自室でゆっくり一人で見たい番組を見たり暮らしやすい居室作りをしています。	
			(外部評価) 居室はクローゼットを完備しており、十分な広さが保たれている。利用者は、自宅から使い慣れたものや好みのもを持ち込むことができ、人形や衣装ケース、テレビを置くなど、くつろげる落ち着いた空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの設置やトイレ等の表示で自立した生活が送れるようになっており各居室も見守りやすい様一列に配置されそれぞれの人に合った部屋選びをしています。	